

[様式 9 - 1]

福祉サービス等第三者評価結果

総合評価

受診施設名	友岡保育園	施設種別	保育所 (旧体系：)
評価機関名	一般社団法人京都府保育協会		

平成 29 年 2 月 28 日

総 評	園周辺は、職業能力開発促進センターや府立高校、私立中高校などの施設があり、地域の文化ゾーンとして教育意識の高い住宅地に囲まれています。近年では、阪急「西山天王山駅」の開設や、京都縦貫自動車道「長岡京インター」の開通など、交通の便も良くなってきている地域にある保育園です。 「愛につつまれ輝く子ども」をめざす子ども像とし、全職員で一人ひとりの子どもを見守り、安心して自己を発揮して過ごせるよう努めています。「子どもは生まれながらに自ら育つ力がある」ことを前提に置き、一人ひとりの思いを大切にしたい保育を心がけ、子ども自身が愛情を注がれ大切な存在と感じ、自己肯定感を育むことで、他者に対しても自然と肯定的に受け入れ、思いやりの心が育つよう配慮しています。 職員が子どもの目線に合わせて話しかける様子や、卒園児一人ひとりへの手作りのアルバムをプレゼントするなど、子どもに寄り添った保育を心がけている様子が伺えました。基本的な生活習慣として「早寝、早起き、朝ごはん、あいさつ、手伝い、くつそろえ」を標語として大切にし、子どもに伝えています。 園長・主任は、毎朝の朝礼を行い、日々の保育について情報の交換・共有に努めると共に方針を活かした保育が行われるよう取り組んでいます。園長は、日頃より保育の様子や行事などの内容を、写真にコメントを添えて掲示し、保護者に伝えています。また、手書きイラスト入りのパンフレットを作成したり、遊具の制作や園内の修繕などを行うなど、主任と協働して、園児、保護者、職員との関わりを大切にした園運営を行っています。
特に良かった点 (※)	- 管理者は、全体職員会議、各部署会議への出席だけでなく、職員へのおたより「和気愛々」の発行や、主任は非常勤職員との会議も毎月開くなど、皆が同じ意識を持って保育に臨めるよう取り組んでいます。 - 子どもたちが食べ物に興味を持てるよう毎日、給食クイズや「栄養調べ」、クッキング保育に野菜の栽培活動などを行っています。当番活動として年齢に応じた配膳や片づけを行っており、年長児後半は、小学校と同じ給食衣を着用し、楽しみながらも責任感が持てるよう工夫しています。また、園オリジナルの「食育戦隊タベルンジャー」を作り、歌や寸劇などを通して食事に興味を持てるよう取り組んでいます。おやつは毎日手作りで提供しています。 - 保育者は「言葉を手渡す」「綺麗な日本語」という事を意識して、丁寧な言葉がけを心がけています。また、「全職員が全園児に関わる」ことをモットーにし、クラスの枠を超えて情報を共有し、子どもたちも一緒に遊んだり歌ったりするようにしています。
特に改善が 望まれる点(※)	苦情解決の仕組みが確立され、入園のしおりにその内容を明示し保護者に知らせています。今後は、第三者委員の名前だけでなく連絡先も明示されると良いでしょう。

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

【保育所版】

評価結果対比シート

受診施設名	友岡保育園
施設種別	保育所
評価機関名	一般社団法人京都府保育協会
訪問調査日	2017年2月28日（火）

保育所評価基準 対比シート

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
I-1 保育の理念・基本方針・目標	I-1-1 (1) 保育の理念、基本方針・目標が確立されている。	① 保育の理念が明文化されている。	A	A
		② 保育の理念に基づく・基本方針・保育目標が明文化されている。	A	A
	I-1-1 (2) 保育の理念、基本方針・目標が周知されている。	① 保育理念・保育方針・保育目標が職員に周知されている。	B	A
		② 保育理念・保育方針・保育目標が利用者等に周知されている。	B	A
	I-1-2 保育の計画が適切に策定されている。	① 中・長期計画が策定されている。（非該当）	非該当	非該当
I-2 計画の策定	I-2-1 (1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	① 保育課程が保育理念・保育方針・保育目標に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して編成されている。	A	A
		② 保育課程と年間指導計画、短期指導計画との整合性が図られている。	A	A
		③ 指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき改定されている。	A	A
		④ 保育課程の編成や指導計画の作成が組織的に行われている。	A	A
		⑤ 保育課程・指導計画が職員や利用者等に周知されている。	A	A
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	I-3-1 (1) 管理者の責任が明確にされている。	① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明されている。	A	A
		② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	B	A
	I-3-1 (2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	① 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	A	A
		② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	A	A

【自由記述欄】

・保育の理念、それに基づく基本方針・保育目標が明文化され、入園のしおり、園のパンフレット、ホームページや園内にも明示されており、周知に努めています。保護者には、新入園児説明会や行事等でも、それらの内容について説明しています。職員は、年度初めの会議と共に毎月の職員会議の冒頭にも理念などの読み合わせをするなど、確認・周知に努めています。園案内用のパンフレットを新しくし、写真などを多く取り入れ、地域にとって園が身近な存在であるよう工夫しています。

・保育課程に基づき、各年齢別の年間指導計画を作成し、そこから子どもたちの発達過程や状況を踏まえて月案を作成しています。保育者が共通認識を持って保育実践ができるよう、おおよその年齢ごとに出来ておいてほしい達成の目安となるチェック表があり、一人ひとりの子どもの成長を把握し成長を促せるよう工夫しています。

・管理者は、全体職員会議、各部署会議への出席だけでなく、職員へのおたより「和気愛々」の発行や、新聞などのコラムで保育や職員に関連するものを切り抜きノートに貼って休憩室に置くなど、保育情報のみに留まらず他分野の情報発信を行っています。主任は非常勤職員との会議も毎月開くなど、皆が同じ意識を持ち、連携を図りながら保育に臨めるよう取り組んでいます。また、「職員のいいところみつけ」として、職員同士で良いところを伝え合うよう取り組むなど、意欲向上を図っています。

・遵守すべき法令等をファイル化し、職員間での回覧実施と、常に閲覧出来るようにしています。

Ⅱ 組織の運営管理

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
Ⅱ－１ 経営状況の把握	Ⅱ－１－（１） 経営環境の変化等に適切に対応している。	① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	A	A
Ⅱ－２ 人材の確保・養成	Ⅱ－２－（１） 人事管理の体制が整備されている。	① 必要の人材に関する具体的なプランが確立している。	A	A
	Ⅱ－２－（２） 職員の就業状況に配慮がなされている。	① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	A	A
		② 職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取り組んでいる。	A	A
	Ⅱ－２－（３） 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	A	A
		② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	A	A
		③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	A	A
	Ⅱ－２－（４） 実習生の受け入れが適切に行われている。	① 実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし体制を整備している。	A	A
		② 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。	A	A
Ⅱ－３ 地域との交流と連携	Ⅱ－３－（１） 地域との関係が適切に確保されている。	① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	A	A
		② 事業所が有する機能を地域に還元している。	A	A
		③ ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	A	A
	Ⅱ－３－（２） 関係機関との連携が確保されている。	① 必要な社会資源を明確にしている。	A	A
【自由記述欄】				
・法人三園合同の園長会議では、福祉ニーズに対する情報共有、人事、労務、財務などの分析・改善に取り組んでいます。必要の人材に対する考え方を「法人の求める職員像」に明示しています。また、キャリアパスを新たに整備し、経験年数や受け持つ年齢に応じた専門的な研修体系があります。 ・年１回、職員は園長と懇談をもち就業に対する意向や悩みなどを把握する機会を設けています。また、職員の育児休業や有給休暇の消化等について管理し、取得しやすい環境を整備しています。 ・職員は、年間３～４回は外部の研修に参加する機会があり、個別の研修計画に基づいて参加しています。また、法人内の研修も年数回実施しています。研修内容は、職員会議の場で時間を決めて発表する事で、要点を整理して皆の前で表現する力も高まるよう工夫しています。 ・実習生の受け入れは、基本プログラムに基づいて実施し、実習中は日々の反省会と共に、中間反省会と総合反省会を園長・主任と共に、有意義な内容となるよう取り組んでいます。 ・子育てサポートセンター事業では、地域の未就園児を対象に「園庭開放」「保育園体験」「子育て相談」「育児講演会」などを実施し、その内容はパンフレットで近隣１，３００世帯に配布し、地域への発信を行い支援に努めています。また、地域のお祭りや清掃活動、園の夏祭りなど相互に交流する機会を設け、互いの信頼関係に繋げています。年長児は近隣小学校と「給食体験」「授業体験」などの交流を行っています。				

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
Ⅲ－１ 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ－１－（１） 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	① 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	A	A
	Ⅲ－１－（２） 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	① 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	A	B
		② 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	A	A
Ⅲ－２ サービスの質の確保	Ⅲ－２－（１） 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。	① 定期的に第三者評価を受診し、事業内容の改善に活かしている。	A	A
		② 定期的に自己評価を行い、その結果と課題を職員間で共有し、改善に向けた取り組みを行っている。	A	A
	Ⅲ－２－（２） サービス実施の記録が適切に行われている。	① 入園面接・健康診断など定められた手順に従ってアセスメントを行っている	A	A
		② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	A	A
		③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	A	A
Ⅲ－３ サービスの開始・継続	Ⅲ－３－（１） サービス提供の開始が適切に行われている。	① 利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	A	A
		② 保育の開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。	A	A
	Ⅲ－３－（２） サービスの継続性に配慮した対応が行われている。	① 転園・卒園にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	A	A
【自由記述欄】				
・個人情報保護に関する規程や同意書を整備し、利用者のプライバシー保護に努めています。 ・苦情解決の仕組みが確立され、入園のしおりにその内容を明示し保護者に知らせています。今後は、第三者委員の名前だけでなく連絡先も明示されると良いでしょう。年２回、保護者アンケートを実施し、その内容は園からの情報発信「あいあい通信」に掲載し、園の思いや取り組みと共にフィードバックしています。 ・第三者評価は３回目の受診となります。訪問調査での総評や評価結果は「第三者評価受診ファイル」を作成し、職員間で情報を共有できるよう取り組んでいます。 ・保護者からの伝言や、子ども状況などについて、毎朝の朝礼で連絡・報告を実施し、個々の子どもの状態について全職員が情報共有できるようにしています。朝礼の内容は、園日誌に記録されています。 ・入園説明会は、プロジェクターを使用し、映像によって分かりやすく説明しています。				

IV-1 子どもの発達援助

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-1 子どもの発達援助	IV-1-(1) 健康管理・食事	① 登所時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している	A	A
		② 健康診断の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A
		③ 歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A
		④ 感染症発生時に対応できるマニュアルがあり、発生状況を保護者、全職員に通知している	A	A
		⑤ 食事を楽しむことができる工夫をしている	A	A
		⑥ 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている	A	A
		⑦ 子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している	A	A
		⑧ アレルギー疾患をもつ子どもに対し、専門医からの指示を得て、適切な対応を行なっている	A	A
	IV-1-(2) 保育環境	① 子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している	A	A
		② 生活の場に相応しい環境とする取り組みを行なっている	A	A
	IV-1-(3) 保育内容	① 子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている	A	A
		② 基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している	A	A
		③ 子どもが自発的に活動できる環境が整備されている	B	B
		④ 身近な自然や社会とかかわれるような取り組みがなされている	A	A
		⑤ さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている	B	B
		⑥ 遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している	A	A
		⑦ 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てよう配慮している	A	A
		⑧ 性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している	A	A
		⑨ 乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	A	A
		⑩ 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	A	A
		⑪ 障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる	A	A

【自由記述欄】

・年2回、内科健診と歯科健診を実施しています。健診後は管理者と園医、看護師を交えてカンファレンスを行い、内容は「カンファレンスノート」に記録し、職員間で情報を共有するよう努めています。健診の結果は「けんこうきろくノート」にて保護者に知らせています。水曜日以外の午前中は看護師がおり、子どもの健康管理に努めています。

・子どもたちが食べ物に興味を持てるよう毎日、給食クイズや「栄養調べ」、クッキング保育に野菜の栽培活動などを行っています。当番活動として年齢に応じた配膳や片づけを行っており、年長児後半は、小学校と同じ給食衣を着用し、楽しみながらも責任感が持てるよう工夫しています。また、園オリジナルキャラクターの「食育戦隊タベルンジャー」を作り、歌や寸劇などを通して食事に興味を持てるよう食育推進に取り組んでいます。おやつは毎日手作りで提供しています。

・毎月、食育だより「くいしんぼ」を発行したり、クラス懇談会後に給食試食会を開催し栄養士より話をしてもらうなど、食育に対して理解が深まるよう取り組んでいます。また、毎月アレルギー会議の開催や、アレルギー除去食についての誤食防止について色々と工夫を行い、その内容について職員が共通認識を持てるようにしています。

・毎日の掃除に加え、月1回全体職員会議の前に日頃清掃出来ない場所の掃除を行っています。

・保育者は「言葉を手渡す」「綺麗な日本語」という事を意識して、丁寧な言葉がけを心がけています。また、「全職員が全園児に関わる」ことをモットーにし、クラスの枠を超えて情報を共有し、子どもたちも一緒に遊んだり歌ったりするようにしています。幼児は、3、4歳児の異年齢クラスを編成しています。そこに5歳児を加えたきょうだいグループを編成したり、サークルタイムとして園児が一日一回は発言する機会を設けるなど、様々な年齢の子どもたちが関わり合えるよう工夫しています。

・コーナー保育は充実し、おもちゃリストも作成しており、年齢や発達に応じた遊びが発展するよう取り組んでいます。また、歌や踊り、触れ合い遊び、リズム運動、わらべうたなど、様々な遊びを楽しめるよう保育を行っています。造形作品や手作り楽器なども個々のお道具箱からはさみやのりなどを自由に使って制作しています。月1回、異年齢で合同リズム運動をしたり、「よもよもデー」と称して子どもたちが選んだ絵本を持ち帰って親子で親しむ時間が持てるよう働きかけたりしています。今後は、これらの活動について、職員はより良く向上できるという熱意があり、今後、日々の保育内容がより豊かになることが期待できます。

・0歳児は、ゆるやかな育児担当保育を行い、特定の保育士との愛着関係が結べるよう配慮しています。

IV-2 子育て支援

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-2 子育て支援	IV-2-(1) 入所児童の保護者の育児支援	① 一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談などを行なっている	A	A
		② 家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている	A	A
		③ 子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている	A	A
		④ 虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに所長まで届く体制になっている	A	A
		⑤ 虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている	A	A
		⑥ 子どもの発達記録やケア記録、保育要録など保育に必要な記録が整備され、保育内容（指導計画）や小学校など専門機関との連携に活かされている。	A	A
	IV-2-(2) 一時保育	① 一時保育は、一人ひとりの子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている	A	A

【自由記述欄】

・年3回、個人懇談を実施しており、必要な場合には随時面談する機会を設けています。その内容は「個人懇談ファイル」に入園から卒園まで継続して記録し、保育に活かせるようにしています。

・年1回全体懇談会、年1回クラス懇談会、幼児は年2回保育参加と平日参観、乳児は年1回平日参観を行い、園の保育内容や方針を知ってもらう機会を設けています。

・子ども一人ひとりの発達経過記録は「児童票」や「観察記録」に記されています。指導計画に対する評価・反省を実施しており、次の計画にその内容が反映するよう努めています。

IV-3 安全・事故防止

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-3 安全・事故防止	(1) 安全・事故防止	① 調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている	A	A
		② 食中毒の発生時に対応できるマニュアルがあり、さらにその対応方法については、全職員にも周知されている	A	A
		③ 事故防止のためのチェックリスト等があり、事故防止に向けた具体的な取り組みを行っている	B	A
		④ 事故や災害の発生時に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	B	A
		⑤ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	A	A

【自由記述欄】

・「衛生管理マニュアル」「食中毒対応マニュアル」「危機管理マニュアル」「不審者対応マニュアル」などをまとめたマニュアル冊子を作成し、全職員に配布し、会議で周知に努めています。調理場については、「調理場、水周りの衛生管理マニュアル」を作成し、より細かい衛生管理に努めています。それらのマニュアル類は、毎年度替わりに見直しを行っています。

・園内の遊具や設備の安全チェックリストがあり、毎月確認しています。保育園近隣の「おさんぽマップ」を作成し、園外保育時の危険箇所の把握に努めると共に、園外緊急時対応マニュアルを作成するなど、安全確保に努めています。